号外

The Vet Allergist
海外皮膚科治療に関するTOPICS

published by
SPECTRUM LAB. JAPAN
2019.04

スペクトラム ラボ ジャパン㈱
獣医師　安田　隼也

An informational overview on in-vitro allergy testing

北米獣医皮膚科学会
2019 North American Veterinary Dermatology Forum

会期：2019年4月10日～13日　　開催地：アメリカ テキサス州オースティン

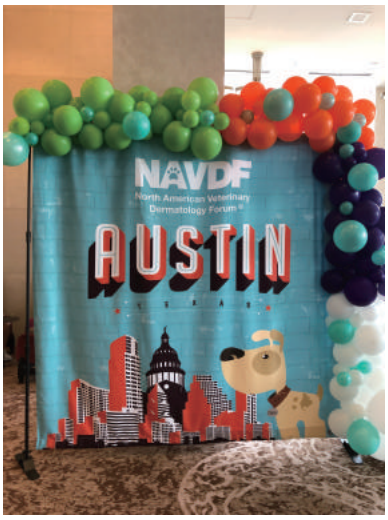
上記学会に参加して得たトピックスをお届け致します。

アレルギー関連講演まとめ　Part.1

Allergen Immunotherapy（減感作療法）の講演

減感作療法の位置づけ

・減感作療法は犬アトピー性皮膚炎の永続的な治療効果を期待できる唯一の方法である。
・減感作療法は疾病をコントロールできる治療方法である。
・減感作療法では自然な「末梢性寛容」機能を引き出すことができる。
・「最後の手段(last resort)」ではなく、「第一選択（first choice)」にする。
⇒アメリカのスペクトラムグループでは SPOT　TEST の結果に基づいて
　FDA（米国農務省）の認可を受け減感作薬を提供しています。



フォーラム会場入口

舌下減感作（SLIT）と注射型（SCIT）の比較

・ヒトでもどちらが優れているか結論が出ていない。
・一方が効かなくても、もう一方が効く場合がある。
⇒アメリカのスペクトラムグループでは SLIT・SCIT どちらも提供しています。

減感作のための抗原選択

・皮内反応と血清検査の相関性は取れない。
・治療に用いる抗原数については専門医の間でも分かれる。
　トレンドとしてヨーロッパは限定的な数種類（only a few)、アメリカでは複数(multiple)の抗原を利用する。

「アレルギー検査」の位置づけ

・検査方法や基準値が定まっていないため、「正確」な検査はない。
　検査機関を選ぶ際も「正確さ」を理由にすることは不可能。
⇒検査項目の多さなどから、SPOT　TEST を選ばれる先生が多数いらっしゃいます。
・診断のための「アレルギー検査」は存在しない。
・犬アトピー性皮膚炎診断後に抗原選択のために利用する。
・皮内反応と血清検査による治療成績の差はない。
・検査をする時期についても一定の説はない。

犬・猫 92 抗原　馬 87 抗原　世界 71 ヵ国で使用の SPOT　TEST

号外

The Vet Allergist
海外皮膚科治療に関するTOPICS

published by
SPECTRUM LAB. JAPAN
2019.05

スペクトラム ラボ ジャパン㈱
獣医師　安田　隼也

An informational overview on in-vitro allergy testing

北米獣医皮膚科学会
2019 North American Veterinary Dermatology Forum

会期：2019年4月10日～13日　　開催地：アメリカ テキサス州オースティン

上記学会に参加して得たトピックスをお届け致します。

アレルギー関連講演まとめ　Part.2

食物アレルギーに関する講演　Prof.Olivry, Prof.Churchill

診断について

・現在のところ、研究論文の数や国際的な検証が不十分であることから、食物アレルギーを診断するための検査方法は存在しない。
・8週間の除去食　療法を行うことで犬・猫ともに90%の診断が可能である。

交差反応

・食物抗原の交差性については従来考えられていたよりも広大であることが分かってきた。ただし、それらが全てアレルギー症状を起こすかどうかは不明である。
・既製品の中に成分に表示されていない食材のキャリーオーバーが疑われる報告があるが、これらが食物アレルギーの原因になるかどうかは分からない（ラベルにない原材料のDNAが検出されたとしても、そのDNAが食物アレルギーを起こすたんぱく質に由来するものか分からない）。

食事の選択

・一長一短であり、専門家の間でも意見が分かれる。

	長所	短所
新奇たんぱく食	・栄養バランスに優れた市販品で対応ができる ・様々な新奇たんぱく食が販売されている	・問診により的確に食物を選ぶ必要がある ・選んだ食材にアレルギー（交差反応含む）がないことが求められる ・他の物質のキャリーオーバーがありうる
加水分解食	・栄養バランスに優れた市販品で対応ができる ・問診によりアレルギーとなる食物が不明瞭でも選択できる ・過去の食物アレルギーの症状が非常に強く、新奇たんぱく食の選択を躊躇する場合でも使用可能 ・手作り食を用意することが困難な場合にも使用可能	・タンパク質の精製度合いがメーカーによって異なる ・他の物質のキャリーオーバーがありうる
手作り食	・使用する食材を自分自身で選択することができる ・飼い主が積極的に食事療法に関わることができる	・問診などでアレルギーを起こした食材を正確に特定する必要がある ・栄養学の知識がなければ必要である ・安定して食材を確保できない場合がある ・調理方法によって抗原の性質が変わり効果に影響を与える可能性が示唆されている

WSAVAが公表しているツール

・WSAVA（世界小動物獣医師会）Global Nutrition Committeeは、Global Nutrition Toolkitを公表している。“WSAVA Global Nutrition Toolkit”と検索すればPDFがダウンロード可能であり、BCS、筋肉量のスコア、体重ごとの必要カロリー一覧などのデータを閲覧することが可能（全て英文）。